

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月22日

事業所名 アスト体操クラブ児童発達支援・放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	相談スペースの間仕切りを可動式にするなどうまく活用している。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		利用人数に応じて増員も検討。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	安全に配慮し、階段には両側に手すりを設置。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	日々のミーティングで情報共有を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83%	0%		今回の実施で職員と話し合う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	33%	33%		今後、HPや連絡アプリなどで配信していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	17%	50%		現在は行っていない。必要があれば検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	83%	0%	行政や自治体が開催する研修会に定期的に参加している。	研修の頻度を増やす。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	83%	0%	面談時にアセスメントをしっかりと行い、その後職員と話し合いをしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	17%	33%	共通したアセスメントシートを活用している。	ツールを活用して評価や分析方法などを統一していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	83%	0%	長期休暇などでプログラムが重複しないよう心がけている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	50%	0%	基本的には集団支援だが場合に応じて個別支援も行っている。	集団と個別の組み合わせを考慮した支援を話し合う。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	支援記録を詳細に記録し職員間で共有している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	83%	0%	運動療育をメインにしているが、生活面や学習面も支援している。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	0%	現状、管理者又は児童発達支援管理責任者が出席。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	50%	33%	連絡アプリや電話等で連絡調整を行っている。	必要に応じて学校との連携を積極的に行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	17%	33%		現状、該当児童はいないが支援する場合は各関係機関と連携を図る。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	17%	67%	必要に応じて個人記録などを作成し、連携機関と情報を共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	33%	0%		現状、該当児童はいないが支援する場合は各関係機関と連携を図る。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	33%	33%	事業所交流会や市の研修などに参加し情報収集や意見交換を行っている。	必要に応じて児童発達支援センター等の専門機関との連携も検討する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	50%		同法人が運営する体操クラブの会員との交流が出来るような場を設ける事を検討中
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	17%	17%		会議などの情報を収集し、必要に応じて参加を検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	83%	0%	送迎時に支援の様子や出来事をお伝えするようにしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	33%	50%		家族支援(ペアレント・トレーニング)のプログラムの導入を検討していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	83%	0%	お茶会などを開催し保護者同士の交流の場を設けている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	0%	迅速に対応できるよう体制を整えている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	50%	17%	事業所入口の壁面に活動の様子などの写真を掲示している。	連絡アプリ等でも今後配信を検討中。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		今後、連絡アプリの掲示板やメッセージ機能で情報を発信していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	17%	50%		地域の方や子どもたちが楽しめるようなプランを模索していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	職員全員に周知出来るよう定期的に研修を行っている	マニュアルを入口付近の配置がわかりづらいのでわかりやすく設置する方法を検討する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	83%	0%	年に1.2回非常災害訓練と防災教育を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	83%	0%	アレルギーのアンケートをとっている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		